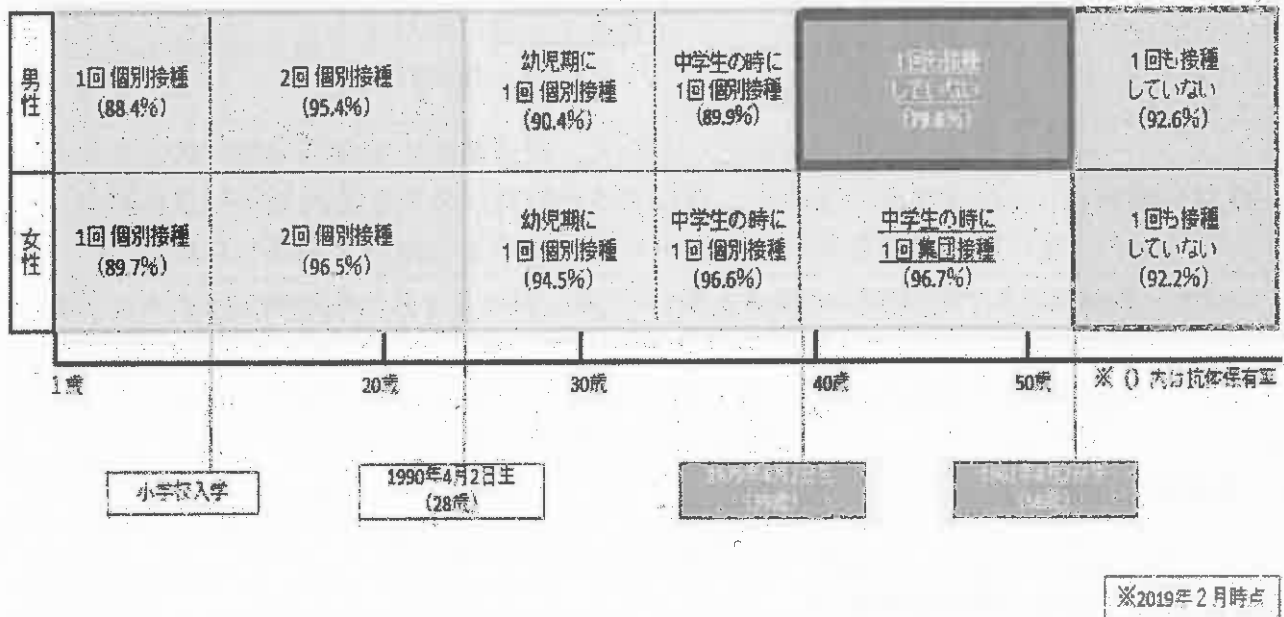


## 風しんの追加的対策について

### 1. 風しんについて

2018 年 7 月以降、関東地方において風しんの患者数が増加しており、患者の中心は 30 代～50 代の男性となっています。また、昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 54 年 4 月 1 日の間に生まれた男性（39 歳～56 歳）は、これまでの制度の変遷上、公的な予防接種を受ける機会がなかった世代であり、抗体保有率が女性及び他の世代の男性が約 90%であるのに対し、当該世代の男性は約 80%と低い現状があります。

風しんは、発熱及び発しんを主な症状とし、飛沫感染により人から人へ感染し、感染力が強い病気で、妊娠中の女性が感染すると、子どもに眼や耳等の障害を含む先天性風しん症候群（CSR）が生じる可能性があります。定期の予防接種の対象疾患となっています。



【出典】国立感染症研究所「年齢・年齢群別の風疹抗体保有状況」2013-2017年をもとに算出（10歳以下のみ2017年のデータで計算）

### 2. 風しんの追加的対策

2020 年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、人の往来が活発化することで、国内で流行している感染症の感染が拡大するおそれがあることの懸念から、厚生労働省より、風しんの感染拡大防止の追加的対策が示されました。

特に抗体保有率が低い、昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 54 年 4 月 1 日の間に生まれた男性に対し、予防接種法に基づく定期接種の対象として、3 年間、定期接種を実施します。また、ワクチンを効率的に活用するため、まず抗体検査を受け、抗体価が低い者に対して定期接種を行うものとしています。抗体検査及び定期接種についての費用は原則無料となっています。

### 3. 風しんの追加的対策の実施概要

対象者	昭和37年4月2日～昭和54年4月1日の間に生まれた男性 (39～56歳 約23,000人)		
実施期間	2019年度～2021年度末 3か年計画で段階的に行う。		
実施内容	抗体検査及び定期予防接種 (ワクチンを効率的に活用するため、まず抗体検査を受け、抗体価が低い者に対して定期接種を実施。)		
通知 <sup>*1</sup>		2019年度 (事業開始当初)	2020～2021年度
	昭和47年4月2日～ 昭和54年4月1日 (39～46歳 約10,000人)	対象者全員に対して クーポン券送付	クーポン券を発行する対象者については、事業の進捗等を鑑みて追って示される。
昭和37年4月2日～ 昭和47年4月1日 (47～56歳 約13,000人)	希望する者に対して クーポン券発行		
検査の機会	働く世代の男性が対象となるため、特定健診や事業所健診の機会を活用した抗体検査の実施や、居住する市町村以外の医療機関等で抗体検査及び定期接種を受けることが可能となるよう全国で調整している。		

通知<sup>\*1</sup>…医療機関及び健診機関の混乱等为了避免するため、2019年4月の事業開始当初においては、昭和47年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性を、当事業の案内を行う対象者として段階的に実施するとされている。

### 4. 具体的な運用イメージ

